

例 言

1. 本概報は、法隆寺における防災工事にともなう昭和56年度における発掘調査の概要をとりまとめたものである。
2. 防災工事およびこれにともなう発掘調査のため法隆寺防災工事委員会を設定し、太田博太郎・倉田文作・坪井清足・岸俊男・工藤圭章を委員に依嘱し、その後工藤圭章の文化庁転出にともない、岡田英男に依嘱した。発掘調査は奈良国立文化財研究所・奈良県立橿原考古学研究所・奈良県文化財保存事務所などが協同で実施した。
3. 本概報の作成にあたっては、編集小委員会を設け、高田良信、森郁夫、堀内啓男、菅谷文則がこれにあたり、本概報の構成を定めた。
4. 本概報に収録した昭和53年度から昭和55年度までの調査概要は、『奈良国立文化財研究所年報』1981、『奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査概報』昭和53・54・55年度に報告したものを要約したものである。なお、昭和55年度の調査概要は『奈良県遺跡調査概報(第二分冊)1980年度』に報告がある。
5. 本概報の作成は、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部長岡田英男の指導のもとに調査参加者全員がこれにあたり、慎重な討議を経て下記のような分担によって執筆した。
I-1 堀内啓男(県文化財事務所)、I-2・3 森郁夫(奈文研)、II-1 菅谷文則(橿考研)、II-2 巽淳一郎(奈文研)、II-3 山田圭子(防災委員会調査員)、III-1 岩永省三(奈文研)、III-2 A~D 巽淳一郎、III-2 E~G 山田圭子、III-2 H 菅原正明(奈文研)、金子裕之(奈文研)、IV-1 菅谷文則、IV-2 A 岩永省三・森郁夫、IV-2 B 巽淳一郎、V-1 高田良信(法隆寺執事長)、V-2 岡田英男、V-3 森郁夫。
6. 遺構・遺物の写真は八幡扶桑(奈文研)・佃幹雄(奈文研)が担当し、池田千賀枝(奈文研)が協力した。編集は森郁夫が担当し、石川千恵子(奈文研)が協力した。
7. 昭和56年度検出遺構図の縮図は主として中尾文子(防災委員会調査員)が行なった。